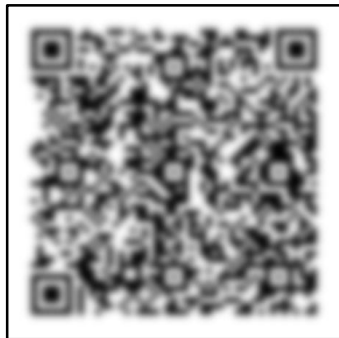




パスファインダーとは、ある事柄を調べるために役立つ基本資料や検索手段を紹介した手引きです

1. はじめに

「竹早中学校メディアセンター」のページにアクセスし、お気に入りに登録したり、デスクトップにショートカットを貼ったりして、今後すぐに利用できるようにしましょう。



←「竹早中学校メディアセンター」QRコード

※ マイクロソフトアカウントが必要です。

メディアセンターWi-Fi : takehaya-ehiten

パスワード : FUD01001001001

2. 情報の種類を確認しよう

今回の授業では、図書資料とウェブサイトを活用して探究を進めます。その際、「必ず原文にあたること」、「デジタルアーカイブを活用し、作品にその画像を用いること」を必須条件としています。

3. 本で調べよう

古典作品には「完全な形で残ったもの」が存在しません。現代、私たちが「原文」として見ることができる文章は、後世の研究者たちが補ったもので、同じ作品でも少しずつ内容が異なることがあります。古典作品の原文にあたる時は、以下の本を参照するのが一般的です。

書名	著者	出版社	出版年
日本古典文学全集	全 51 巻	小学館	1970～
本文、注釈、現代語訳から構成される。赤い表紙。			
新編 日本古典文学全集	全 88 巻	小学館	1994～
本文、最新の研究成果に基づいた注釈、現代語訳、解説。図版も豊富で読みやすい。白い表紙。			
日本古典文学大系	全 100 巻(別巻は総索引)	岩波書店	1957～
本文、注釈、解説、一部現代語訳。赤い表紙で「赤大系」「旧体系」などとも呼ばれる。			
新日本古典文学大系	全 100 巻(+別巻 5 巻、総索引)	岩波書店	1989～
本文、注釈、解説、一部現代語訳。青い表紙で「青大系」「新体系」などとも呼ばれる。収録作品が充実している。			
新潮日本古典集成	全 82 巻(+別巻 12 巻)	新潮社	1976～
本文・注釈から構成される。二色刷りで、本文の隣りに部分的に赤色で現代語訳が書かれている。紺色の表紙。			

新潮日本古典集成《新装版》	全 82 巻	新潮社	2006～
本文・注釈・解説、一部現代語訳。他の全集と比較すると、コンパクトなサイズで扱いやすい。白い表紙。			
角川ソフィア文庫	***	KADOKAWA	1995～
本文、注釈、解説、現代語訳。文庫なので持ち運びに便利。簡易版なので他の書籍と併用。			
角川ソフィア文庫ピギナーズクラシックス	***	KADOKAWA	2001～
古典入門者向けで、現代語や解説が丁寧。作品の概要をつかむのに最適。			

4. 資料を探すためのお役立ちサイト

インターネット上には膨大な情報があふれていて、中には信ぴょう性に欠けるものも少なくありません。やみくもに検索を続けるのではなく、信頼のおけるサイトから効率よく情報を収集できるといいですね。

- * 東京学芸大学附属竹早中学校の蔵書検索 <https://private.calil.jp/gk-2003031-r6s9/>
学校 HP の「蔵書検索」ボタンから、パスワード「faka-book」を入力。竹早中の蔵書を検索・予約できる。
- * 東京学芸大学「GAKUMOPAC」 <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/gakumopac/>
東京学芸大学附属図書館と附属学校 10 校 1 園舎、附属近隣図書館の蔵書を横断検索。
- * 国立国会図書館「国立国会図書館サーチ」 <https://iss.ndl.go.jp/>
国立国会図書館、全国の公共・大学・専門図書館、学術研究機関が提供する資料・デジタルコンテンツを統合的に検索できる。
- * 国立情報学研究所「CiNii(サイニィ)」 <https://cir.nii.ac.jp/>
国立情報学研究所(Nii)が作成している学術情報データベース。本文も読めるもの、抄録や目次だけ見られるものなどがある。日本語で書かれた論文を調べるときはまずチェック。
- * 国立情報学研究所「Webcat Plus(ウェブキャットプラス)」 <http://webcatplus.nii.ac.jp/>
江戸時代から現代までに出版された膨大な書物を対象に検索できるデータベース。
- * ㈱カーリル「カーリル」 <https://calil.jp/>
全国 7400 以上の図書館にある蔵書について、リアルタイムで貸し出し状況を確認できるサービス。

5. デジタル資料を活用しよう

歴史的な書物や文化財を収集・保存している団体は数多くあります。劣化したり壊れたりといった心配があるため非公開になっているそれらの資料をデジタル化して、たくさんの人に利用してもらう取り組みが続けられています。貴重な資料も自分の端末から閲覧できるので、どんどん活用しましょう。

* 東京学芸大学「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」 <https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学の教育・研究活動成果としてのデジタル資源を収集・公開。今回の授業のためにデータを整理し、作品名などのタグ付けをしていただきました。

* (有)ウィリング「アンドラデジタルアーカイブリンク」 <https://andla.jp/da/>

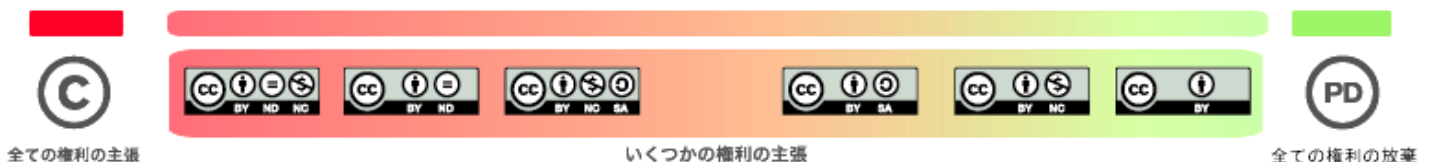
大学や公共図書館、官公庁などが運営・公開しているデジタルアーカイブのウェブページを検索できる。

* 国立国会図書館「ジャパンサーチ」 <https://jpsearch.go.jp/>

日本の様々な分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォーム。

6. 著作権について

著作権は、作品が勝手に使用や模倣をされて作り手が創作への意欲を失わないようにするために誕生した権利です。そのため、他人が著作権を持っている作品を勝手に使うことは著作権を侵す行為となります。一方で、自分の作品を多くの人に知ってもらい、利用してもらうことを望む作り手も存在します。作り手と利用者が安心して作品を発信したり活用したりするためのシステムが整備されています。



このマークが付いているものを選ぼう



CCBY：原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示すれば比較的自由に二次利用できるライセンス



CC0：いかなる権利も放棄(保有しない)という意味

こんなマークもあります→



著作権なし(=PD)
権利の保護下でない

※ 詳しくは「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」<https://creativecommons.jp/licenses/>を参照

今回の古典学習でのルール

- ①画像を利用する場合は「CCBY」「CC0」「PDM」から選び、所蔵機関とURLを明示
- ②音楽を用いる場合はフリー素材のものに限定する

